# 修士論文

タイトル

(English title)

### 指導教員 教授

工学研究科博士前期課程 工学専攻 電気・機械工学系プログラム 2099年度入学

> 学生番号 XXXXXXXXX XXXX

(2099年2月1日提出)

# 目次

第1章	序論	1
1.1	XXX	1
	1.1.1 XXX	1
1.2	本論文の構成	2
参考文	献	3
発表リ	スト	4
謝辞		5

义			次
		_	• • • •

1.1	NIT																			1

# 表目次

1.1	Sample Table																																		2
-----	--------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

## 第1章 序論

#### 1.1 XXX

修士論文用のTeXフォーマットです。卒業論文でも使えます。表紙等,適宜変更してご活用ください。左側のスペースが広いのは最終的に冊子に閉じるためです。また,bibtex を使用します [1].

#### 1.1.1 XXX

Fig.1.1 に示すように, eps, jpeg, png の画像を出力可能です. また, Table1.1 に示すように, 表を



Fig. 1.1: NIT

第1章 序論 2

Table 1.1: Sample Table

時間	項目
0	test, test, test, test, test
20	test, test, test, test, test
30	test, test, test, test, test
35	test, test, test, test, test
60	test, test, test, test, test

### 1.2 本論文の構成

第2章では、XXXについて述べる.

第3章では、XXXについて述べる.

第4章では、XXXについて述べる.

第5章では、XXXについて述べる.

第6章では、XXXについて述べる.

## 参考文献

[1] Ashish Vaswani, Noam Shazeer, Niki Parmar, Jakob Uszkoreit, Llion Jones, Aidan N Gomez, Ł ukasz Kaiser, and Illia Polosukhin. Attention is all you need. In I. Guyon, U. Von Luxburg, S. Bengio, H. Wallach, R. Fergus, S. Vishwanathan, and R. Garnett, editors, Advances in Neural Information Processing Systems, Vol. 30. Curran Associates, Inc., 2017. 発表リスト 4

### 発表リスト

- 1. 学会等の発表歴
- 2. XXX
- 3. XXX

謝 辞 5

### 謝辞

本研究を進めるにあたり、XXX.

最後に、名古屋工業大学佐野・上村研究室、田中研究室の学生、XXXとは共に励まし合い研究を進めることができました。ここに感謝の意を表します。